

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	岡山純心会の理念を名札裏側に印刷してあり、いつでも確認出来るようにしている。朝礼時には、全員で唱和し実践できるように努めている。	本部で全体朝礼が毎朝あり、法人の理念を唱和している。当事業所でも毎日ではないが、同様に法人理念を唱和している。この法人理念を基に、事業所理念を職員全員で作成した。勉強会で知識や技術を高めたり、地域の行事等に参加するなどし、理念の実践に努めている。	理念の唱和や名札裏に印刷してある理念は、法人全体の理念です。職員全員で作成した事業所の理念を伝える機会がなく、知らない新人もおられます。せっかく全員で作上げた事業所の理念なので、職員間で共有し実践していく取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させてもらったり、事業所の行事にも地域の方に参加してもらい相互交流に努めている。	町内会に入っており、地域の盆踊りやカラオケ大会・幼稚園の運動会に参加している。中学生の職場体験も受け入れている。利用者との散歩中に、地域の顔なじみの方から声をかけられる関係もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	愛育委員の方の見学を月に一度受け入れている。また一宮地区民生委員に、香川施設(母体)を視察見学していただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告の後、議題に沿って話し合いをしている。出た意見や情報について、経営者や職員間で話し合い、業務に反映されるよう努めている。	2ヶ月に一回開催している。家族には開催1週間前に、開催のお知らせを電話にて伝えている。地域包括・民生委員・理事長補佐・利用者・家族の参加がある。地域包括から認知症勉強会や介護予防教室の案内があり、実際に職員が参加して、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まだまだ十分とは言えないが、分からないこと・質問事項は都度電話連絡し確認している。	保健福祉局の事業者指導課へ連絡し、不明な点を明らかにしている。事故報告書の送付も行なっている。	市町村職員の運営推進会議参加がなく、事業所の実情や取り組みを伝える取り組みが消極的にも感じました。運営推進会議の議事録を送付するなど、積極的に協力関係を築くよう取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのハンドブックを岡山市から取り寄せ、職員に配布している。都度確認し、身体拘束をしないケアを実施している。	絶対してはならないという、管理者の強い想いを感じた。転倒リスクの高い利用者は、職員がすぐにかかけつけられるように席の配置を工夫している。そのため現在身体拘束をしている利用者はいない。身体拘束に関する勉強会も年に一回している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員カンファレンスで勉強し話合っている。日頃から、声かけや細かな介護業務にも注意をはらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員カンファレンスで、権利擁護について職員全員で話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を取って説明させていただいている。入居申し込み時に契約書等の要求があれば、事前にお渡しして確認していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に気軽に話していただけるよう努めている。契約時にも、事業所に話しにくい事柄があれば、遠慮なく行政に伝えていただくよう声かけをしている。	家族面会時に話をし、意見を得ている。苦情などの相談があれば、職員が相談苦情内容記録票に記入し、対策内容や改善への取り組み状況が確認できるようにしている。	意見箱はありますが下駄箱の上の目立たない場所にあり、今まで意見が入ったことがないとのこと。運営推進会議や面会時など、機会があれば存在をアピールし、口頭では得られない意見を得、運営に反映されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファレンスで、各職員に意見を出してもらっている。カンファレンスには理事長代理も参加する事もあり、提案を聞く機会を設けている。業務については、全員で話し合って決定している。	職員全員参加でのカンファレンスを毎月1時間行っており、体温計がすぐ測れるものにする等、こまかい提案も反映している。さらに管理者が日頃から職員とコミュニケーションを図っており、職員が言いにくいことも引き出し、積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修を兼ねた旅行や、親睦会での個人表彰など職員が向上心を持って働けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の法人内の勉強会に、当日勤務者以外の職員が参加している。また、ケアマネの新任研修にも参加させてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ研修に行ったり、研修を通して知り合った他施設の管理者と、交流しサービスの質の向上につながるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人から直接困っている事や不安に思っている事等を聞き出し、本人の安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでの経緯をお聞きして、これからどのような対応をしていけるのか、話合っている。事前面接の際に要望等確認して関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の状況を把握した上で、その方にあった事業所を紹介したり、当事業所で出来るサービスを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮していただいて、それに対して職員からお礼の言葉がかけられるように意識して業務に当たっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の状態を小まめに報告・相談している。また月に一度、手紙を送って状態をお知らせしている。ご家族から支援のヒントを教えていただいたり、相談にのっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていたスーパーで買い物をしたり、併設のデイサービスや老健施設に向いたり招待したりして交流を深めている。	家族以外の知人や、以前働いていた職場の方の面会がある。利用者からお墓参りの要望があれば家族へ連絡し、実現できるように取り組んでいる。備え付けの電話は、利用者が自由に使えるので、なじみの人との会話も日常的にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報を職員が共有し、利用者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も利用者と一緒に面会に行ったり、また遊びにきてもらえるように声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出時や散歩中の会話から、利用者の本音を聞き出している。困難な場合は、家族と相談し、検討・対応している。	散歩の際など、いつもとは違う雰囲気引き出せる意向や本音があり、職員も話を聞く姿勢を大切にしている。おはぎが食べたいとあれば、おはぎ作りをするなど、意向の実践も行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会時には、センター方式を活用し、暮らしの情報を収集し把握に努めている。独居の方の生活歴は、本人からの情報だけでは把握しきれない事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や、その時の心身状態等記録して、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向を聞き、ご家族の希望や想いを取り入れつつ、介護計画を作成している。また月に一度の職員カンファレンスや、一人ひとりの問題点等の記録を元に意見交換を交わし現状に即した介護計画を作成している。	毎月利用者一人ずつカンファレンスを行なっている。個人ファイルに気づいた問題点をこまめに記入したり、介護計画作成前に家族や職員の意見を聞き、意向や問題点解決に向けての目標をプランにあげている。主治医の往診もあり、居宅療養管理指導書で主治医の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、排泄・水分摂取量・心身の状態・日々の暮らしの様子など記録している。介護計画を見えやすい位置にファイルし、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけその時々々のニーズに対応するようにしている。家族の希望や家族だけの送迎に無理がある時は、福祉輸送や職員による送迎の選択肢を提示している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ地域包括支援センター職員・民生委員の出席があり、地域の情報を教えてもらったり、意見交換をする事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所が内科の上に位置している事もあり、適時医療が受けられる。外部のかかりつけ医には、基本家族支援。家族の希望に応じて通院へ同行する事もある。	希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。希望が無ければ当事業所の1階にある協力医がかかりつけ医となっている。緊急時には協力医の看護師に、オンコール体制がある。近隣に皮膚科や歯科もあり、適切な医療を受けられるように支援ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づきは事業所併設医院の看護師に相談・報告して医師による適切な受診や看護を受けられるよう指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される場合は、医療機関へ情報提供している。入院中は面会し、医療関係者や家族と連絡を取り合って退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時に、重度化した場合や看取りについての指針等説明している。また随時、相談にのっている。	実際に当事業所で終末を迎えた利用者はいないが、生活が難しくなれば、そのニーズに合わせて同法人内の老健や特養などの利用がスムーズにできるように支援している。	同法人内での看取りは行なえており、マニュアルもあります。当事業所独自のマニュアルは無く、実際に看取することに不安を感じている職員も多いとのこと。当事業所独自のマニュアル作りと、職員の不安が払拭できるように取り組み、当事業所で看取りが行なえる体制作りを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを整備し、職員に周知徹底を図っている。また実際の事故報告書に沿って、初期対応の改善点を話合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、母体施設と合同で年2回避難訓練を実施している。	前回の外部評価での課題であった、スプリンクラーの設置も行なっており、現在設置工事中。年2回利用者参加での非難訓練が行なえている。緊急告知ラジオを設置しており、防災意識が高い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も本人の気持ちを一番に考え、さりげない言葉かけや対応を心掛けている。	職員全員が利用者に対して丁寧な言葉かけを実践している。希望があれば同性介助も対応できる。個人ファイルには氏名は明記せず、居室にも認知症の影響のない利用者には、ネームプレートを貼らない対応をしており、プライバシーに配慮できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案して、自分で決める場面を作っている。(おやつ・飲み物の選択等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを尊重して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわっているスタイルを理解し、日々の生活や外出時のスタイル等を支援している。自己決定がしにくい利用者は、2枚の服の中からどちらか一方を選択してもらえよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望を聞いたり、洗米や盛り付け・洗いもの等利用者と一緒に実施している。	調理や盛り付けは利用者と一緒にしている。外出時のお弁当や行事に合わせた献立など、季節を感じ楽しみになるように努めている。糖尿病等制限が必要な方には、法人内の管理栄養士に相談し調整している。毎日のお茶の時間には本人の好きなものを選んでいただいている。国産の野菜を使用し、味付けもよく利用者にも喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や摂取総量をおおまかに把握している。水分摂取量は毎日、何cc摂取できているか記録しており、一日に必要な水分量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけ見守りを実施している。職員が支援して口腔内の清潔を図る事もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段の生活で車椅子を使用している利用者の立ち上がり訓練を実施して、ポータブルトイレへの移乗がスムーズに行なわれるよう支援している。	毎月のカンファレンスでパッドやトイレ誘導のタイミングなど、職員の気づきの中で変更、見直しをしている。現在おむつはゼロ。下着や尿とりパッドの交換が自力できるように支援したり、自立への取り組みに効果が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて状態を把握し、十分な水分摂取量の確保によってスムーズな排便を促している。また、なるべく下剤を使用しないで済むよう起床時に水を飲んでもらったり、散歩等、運動で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその入浴時間は決めている。その中で希望を聞いて入浴していただいている。	浴室の入り口に段差があるが、スロープで対応している。利用者は一日おきに入浴されており、長湯が好きな方や短い時間でよい方を組み合わせて、利用者個別のニーズが満たされるように調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をケースにファイルし、いつでも職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者にお願ひできそうな仕事を頼んで、感謝の言葉を伝えている。(台拭き・洗い物・洗濯干し等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や併設の老健へ面会に行く等、施設内に閉じこもらないようにしている。屋外でお茶会を実施したり、縁日を開催したりしてリフレッシュできるよう努めている。	利用者との散歩や近所への買い物を随時行っており、職員が外へ用事がある際にも、希望者や家族の面会が少なく、外出の機会が少ない方を優先に支援できている。家族との外出や外泊も行なっている。知人に面会するため、法人内の他事業所へ外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でコンビニ・スーパーで菓子等購入される方もいる。また、併設の老健の自販機で好きなジュースを購入される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの席に着席されてもテレビが見えるようテーブルを配置している。 散歩途中で摘んできた花を生けてもらったりして季節を感じてもらえるよう努めている。	リビングにはテーブルや椅子の他に、ソファもあり、思い思いの場所でくつろげるようにしている。季節に応じた飾り付けや、作品作りをしている。法人の中庭と玄関には専門の業者が整備し、四季折々の花が植えられており、常に綺麗に咲いた花を利用者と摘んで飾っている。	共有空間作りにおいて、第三者の意見を取り入れたことがないとのことなので、是非運営推進会議や意見箱などで意見を取り入れられることを期待します。例えば懐かしい家具の設置や、面会者にスリッパを用意するなど、元病棟ということもあるので、家庭的な雰囲気を出すことにも取り組まれましたらと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置して、一人になれる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・タンス類の持ち込みを受け入れている。利用者の生活環境に合った部屋作りを実施している。	居室の入り口に、利用者の作品が展示してある。利用者の状態に合わせて家具の配置換えを行っており、介助がなくても居室のトイレに行けるように家具の配置を考え、安全面にも配慮しながら自立支援に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で片付けが行えるようタンスに印をつけたり、つたって歩けるよう家具を配置している。一人ひとりの状態に合わせて自立した生活が送れるよう工夫している。		